

# 平成 23 年度 第 1 回市政インターネットモニター調査結果

「北名古屋市介護保険事業計画・高齢者福祉計画」についてのアンケート

■アンケート実施期間 平成 23 年 6 月 10 日(金曜日)～6 月 23 日(木曜日)

■回答率 91.1%(31 人/34 人中)

|   | 20 歳代 | 30 歳代 | 40 歳代 | 50 歳代 | 60 歳代 | 70 歳代以上 |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 男 | 1     | 6     | 3     | 2     | 3     | 1       |
| 女 | 5     | 5     | 4     | 1     | 0     | 0       |
| 計 | 6     | 11    | 7     | 3     | 3     | 1       |

## ■調査の趣旨

市では、生涯心身ともに健康で、生きがいや楽しみがある生活を送り、介護が必要となっても尊厳を持ち続けられるまちづくりを進めています。その基本方針となるのが、「北名古屋市介護保険事業計画・高齢者福祉計画」です。

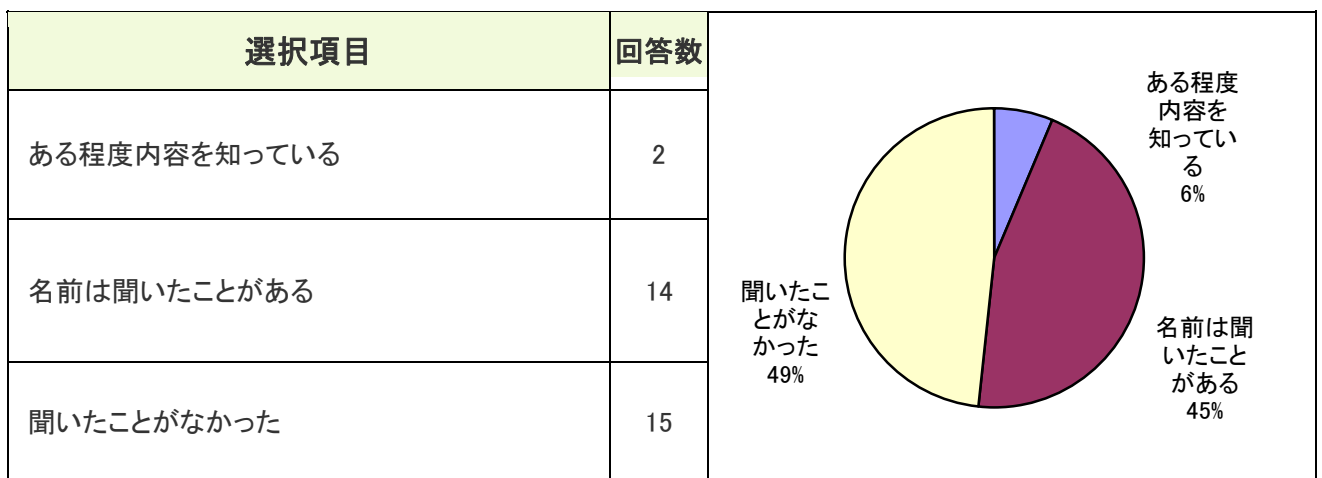
計画は 3 年ごとに見直し、暮らしの実情にあった内容に改正してきました。平成 24 年度に第 5 期の計画改正を迎えることから、今回、みなさんに市の介護保険事業などについてお尋ねします。

## ■アンケート調査結果

問 1 「北名古屋市介護保険事業計画・高齢者福祉計画」をご存じですか。[1つに〇]

※ 北名古屋市介護保険事業計画・高齢者福祉計画とは・・・

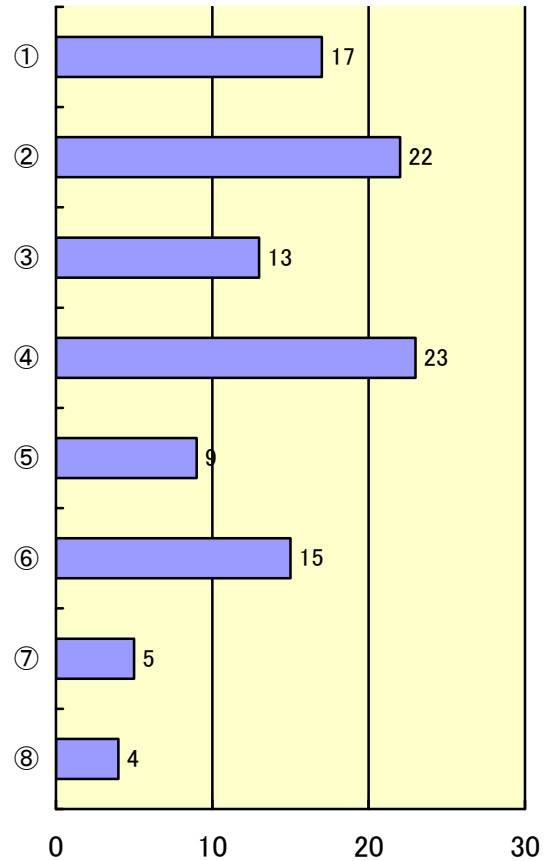
介護保険事業計画は、介護保険事業の円滑な運営と、サービスを提供する体制の確保を計画的に図ることを目的に策定する 3 か年計画です。また、高齢者福祉計画は、高齢者に関する施策全般の計画であり、高齢者の福祉に関する施策を計画的に推進することを目的とする 3 か年計画です。



「聞いたことがなかった」という方が大半を占め、計画があまり認知されていないことがわかりました。「聞いたことがなかった」と答えた方の年齢別の内訳は、20 歳代 3 人、30 歳代 6 人、40 歳代 4 人、50 歳代 1 人、60 歳代 1 人でした。認知度に年齢はあまり影響していないと思われます。

問 2 介護保険制度について、ご存知のことに○を付けてください。[あてはまるものすべてに○]

| 選択項目   | 回答数 |
|--|-----|
| ① 健康保険に加入している 40 歳以上の方全員が被保険者であること   | 17  |
| ② 40 歳から 64 歳までの方は、健康保険料と一緒に介護保険料を納めていること  | 22  |
| ③ 65 歳以上の方は、原則として年金天引きの方法で介護保険料を納めていること  | 13  |
| ④ 介護サービスを受けるには、介護の必要度について介護認定を受ける必要があること   | 23  |
| ⑤ 40 歳から 64 歳までの被保険者は、老化が原因とされる病気(16 種類の特定疾病)により介護が必要であると認定された場合に、介護サービスが利用できること | 9   |
| ⑥ 介護サービスを利用した場合、費用の1割を利用者が負担すること   | 15  |
| ⑦ 介護保険制度は、北名古屋市が運営していること   | 5   |
| ⑧ いずれも知らない   | 4   |

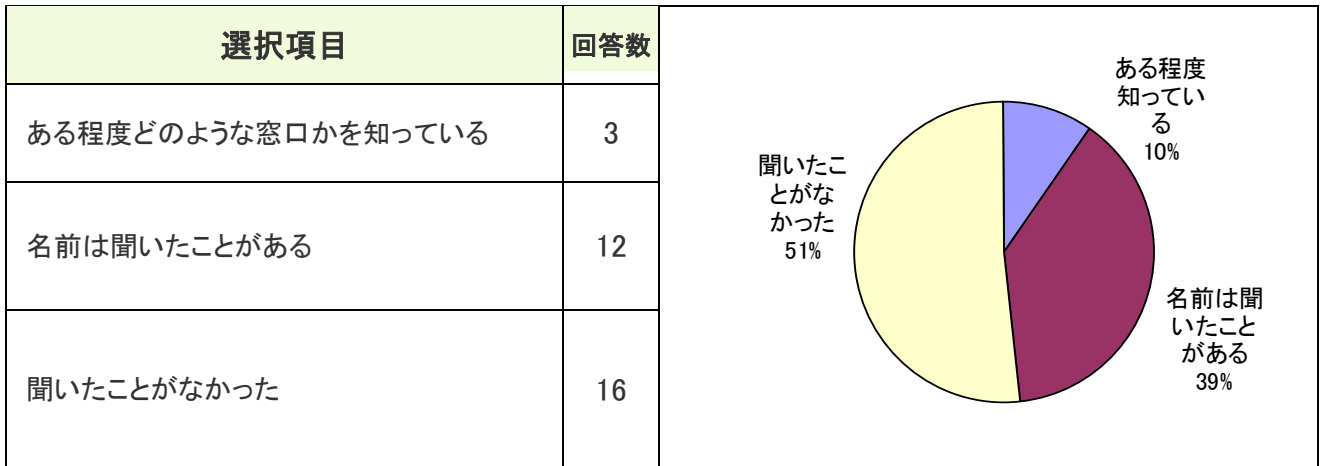


保険料の納め方や介護認定を受ける必要性などはある程度知られているようです。一方で、「いずれも知らない」と答えた方が4人いました。また、介護保険制度が国ではなく市（各自治体）が運営していることも、あまり知られていないことがわかりました。なお、7つの項目すべてについて知っていると答えた方は、1人のみでした。

**問3 「北名古屋市地域包括支援センター」をご存知ですか。[1つに○]**

**※ 北名古屋市地域包括支援センターとは…**

地域で暮らす高齢の方を、介護、福祉、健康、医療などさまざまな面から総合的に支える相談窓口（東庁舎1階高齢福祉課内）です。高齢の方やその家族、近隣に暮らす人の介護に関する悩みや問題の相談に応じます。また、健康や福祉、医療や生活に関することなどの相談にも応じます。さらに、介護予防や認知症予防、虐待の早期発見などの取組も行います。

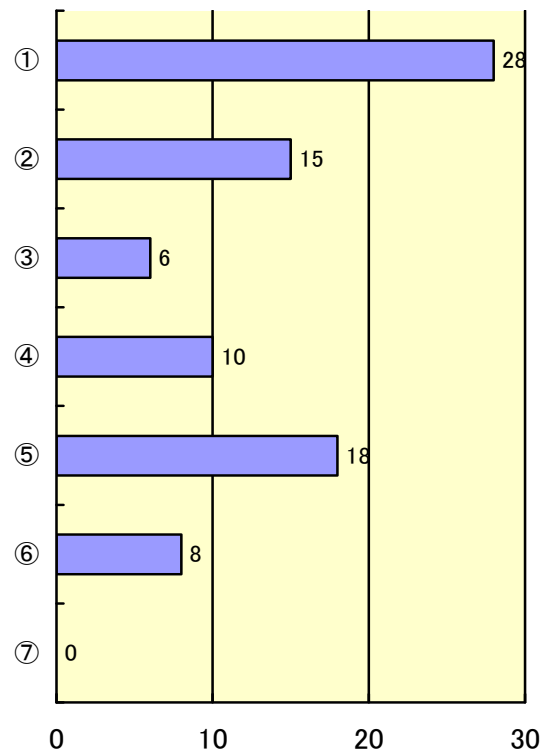


包括支援センターについても、「聞いたことがなかった」という方が半数を占めました。「北名古屋市介護保険事業計画・高齢者福祉計画」両方とも「聞いたことがなかった」と答えた方は12人でした。

「どのような窓口か知っている」と答えた3人の年齢内訳は、20歳代1人、30歳代1人、70歳代以上1人でした。

**問4 介護保険制度の内容や地域の相談窓口について、皆さんによく知っていただくためには、どのような方法が良いと思いますか。[あてはまるものすべてに○]**

| 選択項目                    | 回答数 |
|-------------------------|-----|
| ① 広報紙などで解説する            | 28  |
| ② 介護保険のニュースやパンフレットなどを作る | 15  |
| ③ 地区懇談会などを開催して説明する      | 6   |
| ④ シンポジウムなどイベントを開催する     | 10  |
| ⑤ 市のホームページで解説する         | 18  |
| ⑥ 個別の相談への説明で対応する        | 8   |
| ⑦ わからない                 | 0   |



**その他意見等**

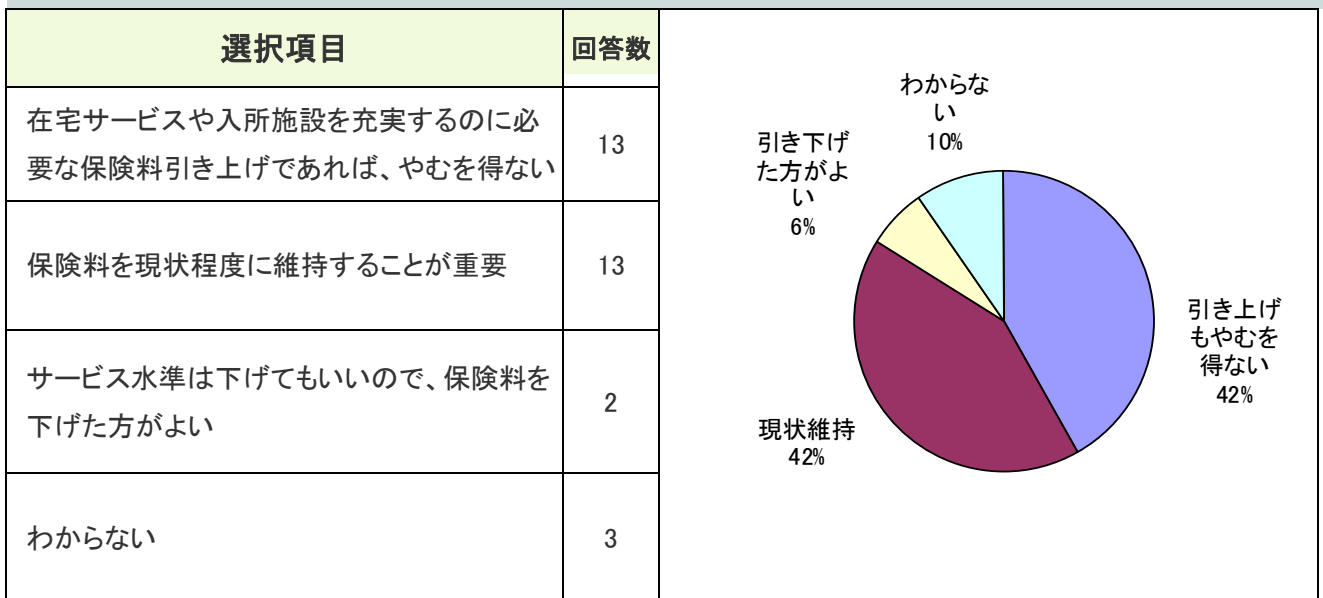
- ・ 介護保険制度に実際に興味を持つ時というのは、ほとんどの場合は家族に介護が必要になった時だと思うので、シンポジウムなどのイベントを開催しても、なかなか参加できないと思う。
- ・ 健康ドームや、文化勤労会館や、スーパーなどに掲載。
- ・ 予め関心を持っていなくても知る機会を得られる様にすべきである。例えば、「広報紙やホームページには、目に留まる様な配置やデザイン・興味を持つ様なメッセージに気を配る」「パンフレット配布や説明会開催には、関連施設(病院や介護施設)・定期的に市民が集まる場(図書館やボランティアサークル)と連携する」と良いと思う。
- ・ まず、このような制度を知ってもらうことから始めるべきだと思う。多くの人がみる広報紙やホームページでの掲載、また高齢者世代が必然的に目にする病院やマッサージ店などに広告を掲載するなど。細かい内容については、個別相談やイベントでも良いと思う。
- ・ サラリーマン(学生も)に対してなら、駅のポスターや、電車の中吊り広告などで周知してもよいと思う。
- ・ 相談窓口のご案内や、対象となる方の具体例などを記載したポスターを市内の施設(文勤やもえの丘はもちろん、市営プールや各自治体の公民館など)に掲示する。
- ・ 市議会議員に説明して歩かせる。
- ・ 家族・親類・知人等身近な人が、介護に迫られる状況になって初めて色々情報収集をする事が多いと思う。従って、広く浅く継続的な広報活動が必要と考える。
- ・ わかりやすい、簡単なパンフレットを各家庭に配布する。

- ・ 介護の必要に迫られている人は、おのずから関心を持たざるを得ないと思います。住民がアクションを自ら興した時が、その制度を理解する良いタイミングの時と思います。制度そのものは大変良いものです。共助の精神でこの制度を今後理解したいと思います。

広報やホームページで周知する方法が効果的と答えた方が多数を占めました。一方で、地区懇談会や個別の説明会では不十分と感じる方が多いことがわかりました。

「介護に関わる立場になって初めて情報収集する事が多い」というご意見をいただきましたが、いざ介護が必要になったときに、制度を利用していただくためにも、より効果的な周知を行っていきたいと思います。

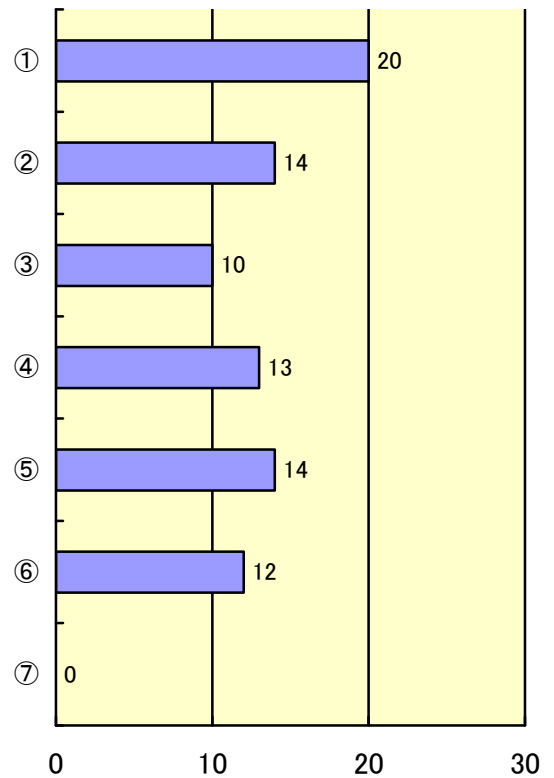
#### 問5 今後の介護保険料について、お考えに近いものはどれですか。[1つに○]



保険料の引き下げを希望する声は少数でした。サービス充実のため保険料引き上げもやむを得ない、または現状維持を望む回答が8割以上という結果でした。なお、「在宅サービスや入所施設を充実するために必要な保険料の引き上げはやむを得ない」と答えた方は、20歳代1人、30歳代5人、40歳代3人、50歳代2人、70歳以上1人という年齢内訳でした。

問 6 健康のために現在取り組んでいることがありますか。[あてはまるものすべてに○]

| 選択項目                   | 回答数 |
|------------------------|-----|
| ① 食事の習慣(間食や欠食など)や内容の改善 | 20  |
| ② 禁煙                   | 14  |
| ③ お酒の制限                | 10  |
| ④ 運動                   | 13  |
| ⑤ 適当な睡眠や休養             | 14  |
| ⑥ 肥満、やせすぎを防ぐ体重調整       | 12  |
| ⑦ 特にない                 | 0   |



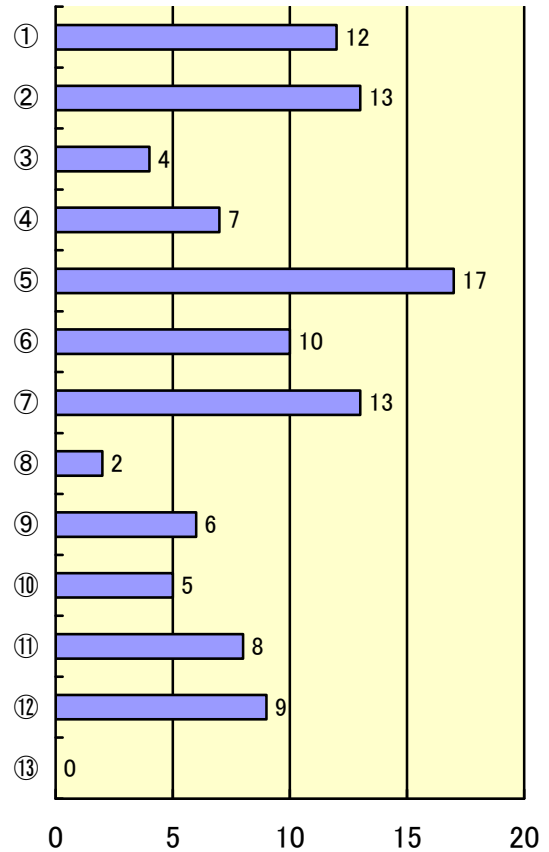
その他意見等

- ・ 昼寝。
- ・ なるべく、ストレスを溜めない。
- ・ 身体面だけでなく、精神面の健康のために、息抜きの時間を作る。気分転換になるような趣味を持つ。一緒に息抜きや気分転換ができる仲間を持つ。
- ・ 健康に関する(学習講演会参加など)市の健康診断、献血などによる健康状態のチェック。
- ・ サプリメントや健康飲料などの摂取。
- ・ ストレス発散。『自分の時間』を持つようにしている。人と関わり合ったり、話す機会をもつようにしている。
- ・ プラス思考で楽しい趣味を見つける。

食習慣の改善などで健康に留意している方が多いようです。また、「ストレスを溜めない」など、こころの健康に気を付けているという回答もいただきました。

問7 健康に毎日を過ごしていくために、参加したいと思う学習の機会はどれですか。[あてはまるものすべてに○]

| 選択項目                   | 回答数 |
|------------------------|-----|
| ① 健康づくりの話や体操教室         | 12  |
| ② 食生活の教室               | 13  |
| ③ 寝たきり予防対策教室           | 4   |
| ④ 骨粗しょう症予防教室           | 7   |
| ⑤ 腰痛・肩こり予防教室           | 17  |
| ⑥ 歯や口に関する健康づくり教室       | 10  |
| ⑦ 心の健康、ストレス予防教室        | 13  |
| ⑧ 尿もれ予防教室              | 2   |
| ⑨ 介護方法の学習教室            | 6   |
| ⑩ 健康づくりを支援するボランティア養成教室 | 5   |
| ⑪ 健診の内容や受け方教室          | 8   |
| ⑫ 認知症予防教室              | 9   |
| ⑬ 特にない                 | 0   |



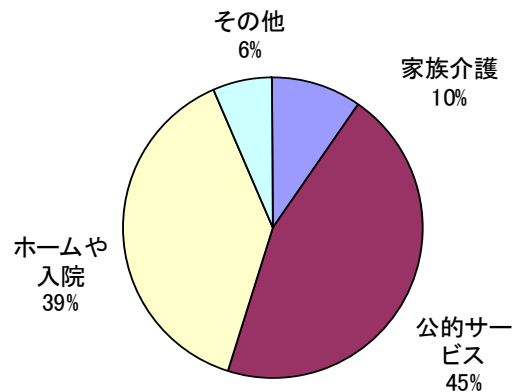
その他意見等

- ・ 既にいくつかは参加したことがある。継続して最新の情報を得ていきたい。
- ・ ヨガやストレッチなどの、手軽に軽運動ができる教室など。
- ・ 座談会(同年代、同自治体などで集まり意見交換や交流を深める)
- ・ 意識付け程度で特に参加は考えてない。
- ・ 高齢者向けのパソコン教室(モノづくりなど)今年度だとうちわとか…。または高齢者の遊び場や学校施設を作る。その目的は1人でも認知症の方がいなくなる為の政策。
- ・ 楽しい時間が過ごせる教室なら何でも良いと思う。

腰痛や肩こりの予防教室を選択された方が17人でした。年齢や性別に関係なく、悩んでいる方が多いようです。その他、健康づくりや食生活の教室など、今現在の生活に直接活かすことができる講座が人気でした。

問 8 今後、もしあなた自身の介護が必要となった場合、どのようにしたいとお考えですか。[1つに〇]

| 選択項目                   | 回答数 |
|------------------------|-----|
| 自宅で家族などを中心に介護してもらいたい   | 3   |
| 自宅で公的な保険や福祉のサービスを活用したい | 14  |
| 老人ホームや病院などに入所(入院)したい   | 12  |
| その他                    | 2   |



その他意見等

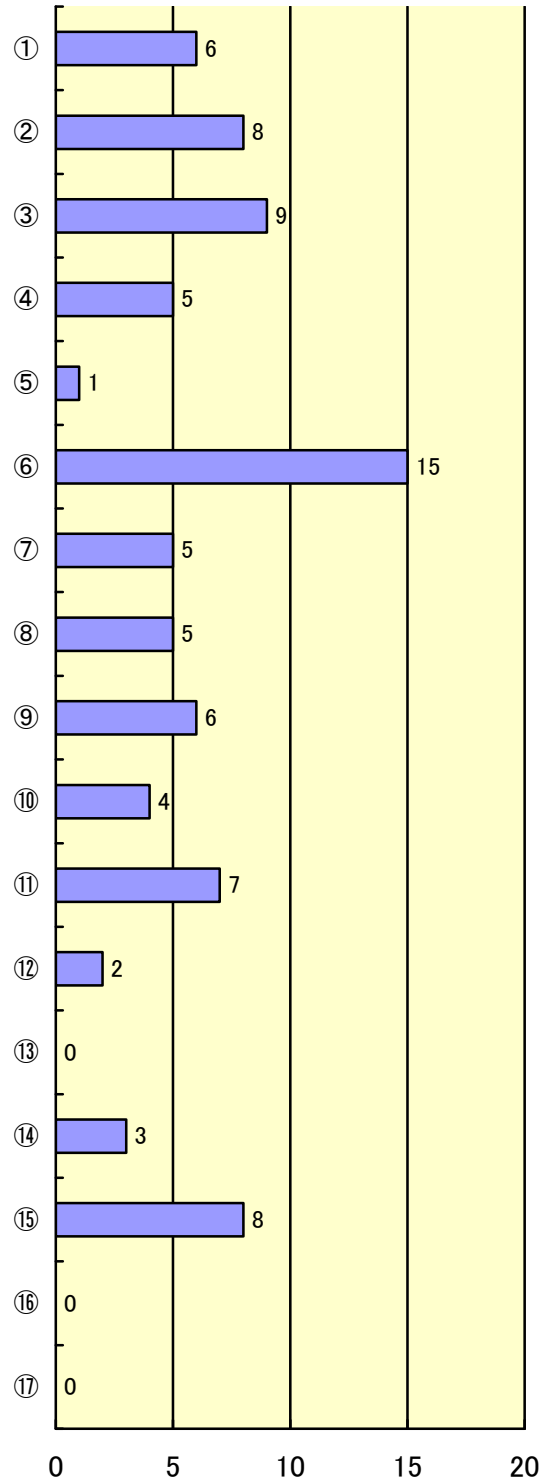
- ・ 精神的・経済的に負担の軽い方法を選びたい。動ける内は、補助具貸出や安否確認サービスを利用したい。必要な時が来たら、いつでも老人ホームや病院などに入れる仕組みが望ましい。
- ・ その時にならないとわからない。その時の金銭事情や家族状況などによって変わりそう。
- ・ できるだけ周りに迷惑を掛けたくないと思います。でも、一番心配なのは、やはり動けなくなった(稼げなくなった)時のことです・・・。
- ・ 家族などの生活に負担をかけない方法を選択する。
- ・ 北名古屋市は、グループホームやディーサービスの環境は、どの程度整っているのか、介護を必要としている人が、十分にその恩恵にあずかることができているのか今後その実態を勉強していきたいと思ます。

公的サービスや施設を利用したいという方が8割を占め、家族に介護をしてほしいと答えた方は1割程度でした。「家族には迷惑をかけたくない」という思いを持つ方が多いようです。



問9 問1の計画の中で、本市が特に力を入れるべき取組は何ですか。次の中から3つまでお選びいただき、下の表の中にその番号とともに、選んだ理由及び充実を望む内容などをお書きください。

| 選択項目                  | 回答数 |
|-----------------------|-----|
| ① 知識や教養を学ぶ講座などを増やす    | 6   |
| ② 高齢者によるボランティア活動を増やす  | 8   |
| ③ 仲間同士の交流に使える施設を増やす   | 9   |
| ④ 隣近所や地域の支え合い活動を進める   | 5   |
| ⑤ 子どもたちへの福祉教育を進める     | 1   |
| ⑥ 高齢者の働く場や機会を増やす      | 15  |
| ⑦ 認知症や生活習慣病の予防対策を進める  | 5   |
| ⑧ 筋力トレーニングの教室を増やす     | 5   |
| ⑨ 在宅福祉サービスの種類や利用枠を増やす | 6   |
| ⑩ 入所施設やケア付きの住宅を増やす    | 4   |
| ⑪ 救急や訪問などの医療の充実を進める   | 7   |
| ⑫ 公共施設のバリアフリー化を進める    | 2   |
| ⑬ 認知症への支援や権利の保護を進める   | 0   |
| ⑭ 防犯・防災対策を進める         | 3   |
| ⑮ 家族介護者への支援策を進める      | 8   |
| ⑯ その他                 | 0   |
| ⑰ 特にない                | 0   |



## 理由及び充実を望む内容

### ① 知識や教養を学ぶ講座などを増やす

- ・ 気軽に参加できそうだから。
- ・ 私は、学生時代あまり勉強などもしていなく後悔をしています)、知識・教養に関しては学生を卒業してから気づきます。また習い事をしたい、でも高額な習い事もあるので、市民が得意分野に関して協力し合えば、すごいパワーになると思います
- ・ 介護に関する知識も含め、常に学ぶことはいいことだと思う。
- ・ 介護保険について、まず基礎知識がありません。まず基本的なことを学ぶことから始めていきたいとします。また、それを学ぶ講座に参加したい。
- ・ なかなか、思うような教育講座がない。

### ② 高齢者によるボランティア活動を増やす

- ・ 高齢者は、人との交流が必要と思うから。ボランティアをきっかけに何かやりがいが見つければいいのではないか？
- ・ まず、お年寄り同士で助けあいをするとうい。
- ・ 高齢者の働く場、機会を増やした方が健康維持および町の活性化につながると思うので・・・。
- ・ 高齢者と子供のふれあえる機会を増やす。高齢者が外にでる機会を与える。
- ・ 子供手当・児童手当支給より学校給食無料化したほうが良い。
- ・ 自宅にこもりきりになってしまうと、行動範囲も狭くなるので外へ出るきっかけが必要。
- ・ 出かける機会が少ないため。

### ③ 仲間同士の交流に使える施設を増やす

- ・ 地域社会の連帯感が薄くなってきているから。
- ・ 人とのふれあいを増やすことで、地域社会の活性を図れる。孤独な老人の減少を図ることができる。
- ・ 定年退職して家で一人で過ごしている人よりも、近場の知り合いと話したり出かけたりしている人のほうが生き生きしており、悩みごとの解決も早いような気がします。刺激が少ない毎日だとボケてしまうという話も耳にします。これから高齢者の割合も増えるので、集まりやすい場所やきっかけを市が作ってくれるとありがたいのでは？
- ・ 状況になると考えられ、わがままを言う様ですが身近な所に気楽に集うことが出来る施設の開放が必要となると思う。財政的に許されるならば、そのような施設建設を考えて欲しい。
- ・ 近くにゲートボール場があるが、活気にあふれている このような趣味をもつことと、趣味を通じた交流の機会が老化防止には必要。不足しているのであれば増やしてあげたい。
- ・ 岩倉市東側の施設のような、駅からすぐの場所でセミナー等を行える公共の施設がほしい。
- ・ 人との関わりを常に持ち続けてほしい。
- ・ いろんなサークル活動があるけれど、参加する時間が限定されている。

### ④ 隣近所や地域の支え合い活動を進める

- ・ 高齢者が孤立しないように、普段から地域に関わることが大切だと思うから。
- ・ 隣近所の方たちと交流をもってお互いで助け合っていける環境が作れば、ボケ防止にもなるし、何かあ

った時すぐに対処できると思う。

- ・ (特に一人暮らしの高齢の方などは)何かあった時助けを求める宛てがないと不安だと思うから。また、公共の窓口も24時間対応しているところばかりではないし、本人が連絡できる状況でない場合も多いかと思ったから。『遠くの親戚より近くの…』かと。
- ・ 残念ながら自分もそうですが、男性人で他の市町村に勤めている方は近所付き合いは少なく、どんな方が同じ組・隣の組等に居るか知らないのが実態です。
- ・ 北名古屋市全域の傾向であったと考えるが、地域の居住人口が増加すると共に地域の絆が粗になり、強い絆を作ってきた慣わしは軽んじられ、敬遠されてしまった。今更、懐古しても致し方がないことかと思えるが、少子高齢化が一層進む近未来には地域の暖かい触れ合いというか絆が必要と考える。隣近所というか極狭い地域の支え合う活動が喫緊の課題と思う。

#### ⑤ 子どもたちへの福祉教育を進める

- ・ 気軽に参加できそうだから。
- ・ 福祉実践教室などの学内教育にとどまらず、地域の福祉イベントやボランティアサークルへの参加を促すことで、生涯を通して福祉に関心を持つ習慣を得られると良い。(子どもたちの参加がイベントやサークルに活気をもたらす)

#### ⑥ 高齢者の働く場や機会を増やす

- ・ 認知症予防のためにも、体が動く元気なうちは働き、また、働きながら、仲間同士の交流の場にもつながると思うから。
- ・ 高齢者の働く機会が増えれば、高齢者の「やりがい・いきがい」が生まれ、認知症の予防にも役に立つ。
- ・ 定年後も体が動く間は働きたいと思っている人は多いはず。仕事を通じて社会との接点を持ち続けることは、生きがいにつながると思うので。
- ・ これからの高齢化社会に向けて、高齢者が助けられるだけの存在ではいけないと思うし、それでは将来的にキリがない。世の中、元気すぎるくらいの人はいくらもいるので、認知症や寝たきり予防のためにも、高齢者が社会に必要とされる場を設けるべきだと思う。
- ・ 年金受給がさらに高齢化することを考えた場合、定年後も生活のため働ける社会が必要不可欠 働くことが生きがいのひとつにもなるのでは？
- ・ 人生働いていれば元気が出る、生活保護が本当に必要かチェックする。
- ・ 高齢になっても仕事を通じて社会活動を続けることは、本人の尊厳を維持することにもつながるし、心身の健康維持や認知症対策にもなると考えるから。
- ・ 働ける、働きたいお年寄りには働いたほうが健康を維持できるため。
- ・ ボランティアに限らず、高齢者の働く場、機会を増やした方が健康維持および町の活性化につながると思うので…。
- ・ まだまだ元気な高齢者の方が増えているように思われるので、適度な刺激になり且つ収入も得られる仕事があるのはいいと思います。ただ、高齢者向けの仕事があっても、その事実が伝わらなければ意味が無いので、広報で紹介するなど情報が入りやすいようにしてほしいです。
- ・ 自分の母親もそうでしたが、働く場が無くなってから認知症を発症した。
- ・ 今現在高齢者の方は、結構元気な方がたくさんいるので、北名古屋市にはシルバー人材センターがあるの

で、それを有意義につかえば、認知症を遅らせたり、元気の街づくりになりそうだと思います。

- ・ 高齢化社会で時間があっても仕事のない時代だから。

#### ⑦ 認知症や生活習慣病の予防対策を進める

- ・ 北名古屋市は、回想法による認知症予防で既に知られている。今後も北名古屋市歴史民俗資料館等による研究・普及活動に力を入れ、市民の意識を高め、市の特色としていきたい。
- ・ 予防することにより投資的見解である。
- ・ 病気にならないための知識をもつことが必要だと思うから。
- ・ 認知症や生活習慣病の予防を充実させることは、保険料の減少につながる。
- ・ 認知症起こさないようにするにはやはり頭や体を使う事だと思います。そういう為の高齢者向けのフィットネスなど作るのはどうでしょうか？

#### ⑧ 筋力トレーニングの教室を増やす

- ・ 気軽に参加できそうだから。
- ・ やり方が分からないため。
- ・ 筋力の衰えが老化をまねくため。
- ・ なってしまったからの対策よりも、ならないような対策がいいと思う。
- ・ 体を動かすことは大切だと思う。
- ・ 他人にたよるだけでなく、自ら予防し自分自身の生活に責任を持つためにも寝たきりにならない体を作るのに必要。

#### ⑨ 在宅福祉サービスの種類や利用率を増やす

- ・ 現状でどの程度利用者がいるのか分からないが、もしも利用したいのに枠にもれて利用できないという人が多くいるのであれば、充実を図るべきだと思う。
- ・ 在宅福祉サービスが増えることにより、家族への負担感が減り、本人も家族への迷惑を感じなく、過ごすことができると思ったから。
- ・ 利用者が利用し易い環境作り。
- ・ 施設に入れない老人がたくさん居ると思うから。
- ・ 家族介護者の負担を減らす良い方法だとおもいます。もっと頻繁に利用できるように、介護のレベルが低い人も少しは利用できるようになると、気持ち的にも体力的にもありがたいとおもいます。また、「このようなサービスをお願いするなんて、親を見捨てている」とか、「近所に白い目で見られる」とか、いまだにそんな話を聞くので、その辺りからも利用しやすい環境を作ってほしいです。
- ・ 親族に頼れず、入所施設に入るお金もない、という方がどれくらいいるかは知らないが、一人暮らしのお年寄りには近所にも多い 健康な人にとってはちょっとしたことでも、手伝ってもらいたいケースは多いのでは？

#### ⑩ 入所施設やケア付きの住宅を増やす

- ・ 気軽に参加できそうだから。
- ・ お年寄りを抱える家族の負担を軽減するために、それとお年寄りにも優しい住宅が今後増えるべきだと思います。

- ・ 現状はもちろん、今後さらに高齢者が増える事を考えれば、プラスアルファの機能・施設をもつ住宅を増やすことは有意義だと思う。
- ・ 北名古屋市には、どんな入所施設があるか、又どんなサービスが受けることができるか知りたいと思います。おかげさまで、まだ介護を受けると言う状態ではなく、むしろ働かなければならない環境にあります。でもいずれ将来のために必要なことです。
- ・ 可能であれば、低料金にてのケア付き住宅を増やしてほしい。入所施設は、最近はいろいろありますが、やはりそれなりの費用が入居時および毎月かかります。

#### ⑪ 救急や訪問などの医療の充実を進める

- ・ 気軽に参加できそうだから。
- ・ 一般の方とは別に、高齢者の方に対しての、救急の場合の対応は考えなくてはならないと思ったので。また、高齢者宅への訪問は身体介護だけでなく、心のケアにも繋がると思うので、内容の充実や頻度などは重要だと思われたから。
- ・ 高齢化社会の宿命である。
- ・ 一人暮らし等の高齢者宅の定期的な訪問で、不安なことなどを聞いて心のケアをしてあげる。
- ・ 年金暮らしの老人が病院に行きたくても交通費がかかるから。
- ・ これから一層の高齢化が進む中で、多分、救急の頻度も訪問医療の要望も増加する一方であろうと推測する。救急や訪問医療をより一層の充実を進める事が出来ないか検討すべきだと考える。これは高度な専門的な人的資源を必要とする問題なので北名古屋市の姿勢に惹きつけるだけの魅力というか、明るい未来の町づくりがあるのか試される課題でもあると思う。
- ・ 対象は高齢者にかかわらず、医療の充実は常に進めてほしい。
- ・ 医療の充実は、安心社会の表れでもあります。人にやさしい街づくりを目指していきたいと思います。

#### ⑫ 公共施設のバリアフリー化を進める

- ・ 積極的に外出できるような環境作りが必要。
- ・ バリアフリー化することで高齢の方々の行動が楽になると思うから。近所のお年寄りが車いすで整備されていない道を横断しようとしているのを見てバリアフリーの必要性を痛感しています。また、今回のアンケートとは関係ありませんが、バリアフリー化はベビーカーの親御さんにも便利だと感じます。

#### ⑬ 防犯・防災対策を進める

- ・ 駅周辺やドンキホーテ周辺が物騒だから。
- ・ ひったくりなどの軽犯罪が多いので。

#### ⑭ 家族介護者への支援策を進める

- ・ 介護をするのは、とても精神的な負担は大きく、市として支援をしていただければ、気持ちも安らぐのでは・・・。
- ・ 介護疲れによる共倒れを防ぐために、介護する側の支援、救済も必要だと思うから。
- ・ 市の主催する講演会やイベントに際して、介助スタッフ(ボランティアや会場近くの介護施設職員)を常駐したり、ショートステイを無料で利用できるサービスを提供したりすれば、外出しやすくなり精神面での支援に

なるのではないか。

- ・ やはり身内の方の介護は心身ともに幸福なことだと思いますが、介護していただける方の金銭的、かつ時間的な拘束(仕事や家事育児などへの影響)や心労など、現状に於いては、介護する側の負担が大きいと思われたから。
- ・ 介護疲れによる犯罪を減らしたい。
- ・ 在宅介護は非常に大変だと思います。デイサービス・ショートステイ等家族の負担軽減は重要課題と考えます。
- ・ 家族が多くできれば良いと思う。
- ・ 介護する側への支援をすることで、介護疲れや悩みを軽減するも重要だと感じるから。

「高齢者の働く場や機会を増やす」という項目に最も多くの回答が寄せられました。次に「仲間同士の交流に使える施設を増やす」「高齢者のボランティア活動を増やす」という内容に票が集まりました。生き生きとした毎日を過ごす、介護予防の充実を希望する方が多いことが確認できました。

問10 最後に、介護保険事業や高齢者の保健福祉について、ご意見・ご提案などがあれば、自由にお書きください。(400字以内)

### 自由意見

- ・ 介護保険事業や高齢者の保健福祉は大切なことですが、広く知られていない感じがしますので、積極的に広報などで周知していただければと思います。
- ・ 介護制度は複雑なイメージがある。介護の度合いに応じて支援を受ける時の金額が違うし。介護施設や老人ホームの違いも私にはいまいち分からない。「特養」「NPO法人」「民間」とか、いろいろあって、いざ利用するとき一体どこに行けばいいのかな、と思う。こういうの、分かりやすく一覧にしてもらえませんか？「母子手帳」って妊娠中から子供に関することまで詳しく書いてあるし、それに付随していろいろ資料がもらえて助かりました。介護に関してもそのようなものがあるといいと思います。
- ・ お年よりが住みよい世の中にするには、ひいては自分や子供たちの将来を良くすることなので、しっかりと考えていきたい。
- ・ 介護保険料は、通常働き盛りに納めているので、問題はないと思われる。事業や保健福祉の内容については、勉強不足でもあり、わかりかねます。個人的には、家族に負担はかけたくはないので、介護保険を使用し福祉サービスを利用して、生活を送りたい。介護をする家族の精神的な苦痛は、避けていきたいです。在宅福祉サービス等利用できるよう充実した市になるよう心がけてほしいと思います。
- ・ 負担の少ない市民参加型の福祉業務を考えるべきである。
- ・ この事業は今後ますます経費・予算が必要となるとありますが、必要な事業です。ですので、市の財政も考慮し、民間(NPO)などと連携して進めることが重要と思います。ただ、利用者が負担する費用をなるべくおさえることも重用してほしいです。アンバランスな事項ですが、必要不可欠と思います。
- ・ 介護保険料を市が負担する。
- ・ 行政に携わる役人が、介護を必要とする人が役場に来るまで待つのではなくて、役人が率先して老人を抱えている家族を訪問して、介護保健事業や高齢者の保健福祉について北名古屋市の取組や意見などを聞いてみるのが一番だと思う。
- ・ 更なる意見・提案ができる様に学習機会を得たい。
- ・ 個人的には、高齢者が自立して生活できるように支援していくことが大切だと感じる。実際、何かに打ち込んでいたりする人は歳をとっても元気。積極的に外へ出ていきやすい環境があれば、もっと元気な人は増えると思う。共同農園で農作物を作る→できた野菜を売る(または老人ホームなどで食べる)→やりがいがある。例えば、コミュニティみたいなものを作り、交代制で世話をするなど・・・他人と何かをやり遂げるとかがいいと思う。
- ・ 民間の施設はお金の負担が大きい 市が運営の施設を作ってほしい。国民年金だけでは、入居施設が少ない。
- ・ 子どもも、お年寄りも健やかに暮らせる街を望んでいます。
- ・ 介護認定の際に、認定員が来るから普段は寝たきりで何もしない高齢者がその時だけ動いて、介護認定をもらえないケースが非常に多い。家族の同意の上で、隠しカメラ等で普段の生活を把握したうえでの介護認定の判定が必要だと思われる。

- ・ 残念ながら『わかりにくい』というのが、今の私の率直な意見です。「もし、将来、子供たちが巣立った後、夫に先立たれたら…」と考えた時、倒れた後も生きていける方法があるのかと不安になります。他人であっても、同じ人として、支えあって生きていけたらいいですね。第一の人生(独身時代)、第二の人生(結婚後)、第三の時代(子供たちが巣立った後)、そして第四の時代(老夫婦二人の生活)以降も、『生きていくこと』に対しての心配がないことを願っています。
- ・ 住みやすく安心できるまち作りを希望する。福祉に特化した市になればいいなと思います。そのための入口の確保と出口の見直し等実際には簡単な事ではないと思いますが、歳入・歳出について広く市民の声を聞いて立案すべきだと考えます。
- ・ 私はシニア関係のパソコンのインストラクターをしています。北名古屋市にはすごく介護施設があり本当にいい町だと思います。私はそういう施設を今後まわり、何かできる事を探したいと思います。そういう施設で1ヶ月に1回は何か力になれる取組などできる仕組みを提案します。
- ・ 自然な介護(楽にできる介護)ができる設備の充実、街づくり。
- ・ 介護を必要とする人が、孤立しないように、町ぐるみで助け合うことが必要です。そのためにも、保健福祉のわかりやすい制度をつくり、だれもが必要とする時その精度の恩恵にあずかれるように、共助精神を私たちの街から広げていくことができれば、思いやりのある優しいまちとして、住みよいわが町となると思います。
- ・ ある程度の支援は必要だが、高齢者というだけで全てを行政や家族に依存するのではなく、まずは自分自身で自立し生活を送れるような予防策や、医療体制を構築していき、高齢者自身の意識改革もおこなっていく。
- ・ 介護が本当に必要な人かをチェックすることが必要で、コネで介護が必要でない人にも適用をしているかの調査も行っているのか。
- ・ 体験してみないと分からない事が多いと思う。
- ・ 要介護になった方へのケアも大切ですが、高齢者が自分のことは自分でできる仕組み(前述のバリアフリーや仕事など)を作ることも非常に大切だと思います。現在主人の祖母が79歳です。まだ自分一人で車に乗って買い物などをしていますが、近い将来車や自転車に乗れなくなると、自分で歩くことができるにも関わらず誰かの手助けなしには外出できなくなるのではと心配しています。きたバスもそばにバス停がなく本数もとても少ないです。お年寄りが最寄りの駅やスーパー、銀行、公共施設などに一人でも行けるように市内の路線バスの充実をはかっていただけたらいいなと思っています。
- ・ なかなか、難しい。私立の福祉施設が乱立気味で、こういう事業があちらこちらにできるのは、いいことなんだろうかと思います。

この度は、「北名古屋市介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定」に関する市政インターネットモニターアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

今回、みなさまにいただいた貴重なご意見等は今後、介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定委員会で協議し、計画に反映させていただきます。